

# 子ども・子育て支援の学びと ICT

## —オンラインぴっぱらん活動のプロセス—

Studying the Support for Infants and Parents Using ICT:  
The Process of Preparation of the Online Pipparan

瀬々倉 玉奈      清水 文

### 1. 問題と目的

児童学科では 2016 年度から様々な講義内外の時間を利用して「親子支援ひろば ぴっぱらん」の活動を行ってきている(瀬々倉.2017・2018・2019)。2020 年度からは、2 回生を対象とした通年科目「子ども・子育て支援演習 I」が開設され、現代の保育者に求められる子ども・子育て支援を体系的に学ぶ一連の科目の一つに位置付けられている(表 1:瀬々倉.2019)。当該科目はアクティブラーニングを中心としており、「ぴっぱらんど」活動を行う内容となっている。これは地域密着で乳幼児期の親子を学内の子育て支援ルーム(以下、通称の「ぴっぱらんルーム」と称す。)に招き、保育学生が日頃学んでいる知識や技術を総動員したプログラムを提供するイベントを含む活動である。「ぴっぱらんど」とは別に、筆頭執筆者のゼミに所属する 3・4 回生が中心となって行ってきた少人数・個別対応制で親子分離を基本として連続開催する「ぴっぱらんシリーズ」のイベントについても、引き続き充実化していく予定である。本稿では、「ぴっぱらんど」と「ぴっぱらんシリーズ」とを「ぴっぱらん活動」と総称し、親子を招いて行う活動については「イベント」と称する。

2020 年、新型コロナウイルス(covid-19)感染症拡大(以下、「コロナ禍」と略す。)という不測の事態に見舞われ、4 月下旬からようやく開始された講義は、学生も執筆者らも混乱や不安の中で進めることとなり、一時はぴっぱらん活動のイベントの実施が危ぶまれる状況となった。そこで、現代における子ども・子育て支援の原点に立ち返り、コロナ禍の親子が晒されている厳しい状況下において、自分たちができることは何かを考え、イベントに向けて活動していくこととした。大学では、コロナ禍対応として ICT(Information and Communication Technology)システムの導入が一気に進み、日々新たな知識や技術を取り込み ICT ツールを駆使した講義が教員に求められる一方で、学生にも ICT への適応が求められることとなった。なお、文部科学省は、コロナ禍以前から、ECEC(乳幼児期の保育・

教育:Early Childhood Education and Care))における ICT の充実化を求めている。

2020 年度の「びっばらん活動」で保育学生たちは、従来の対面型に加えてオンラインによる遠隔双方向型、録画を利用したオンデマンド型などを組み合わせたハイブリッド型の授業によって、子ども・子育て支援の学びを進めている。秋にはオンラインによる遠隔双方向型で親子を対象とした「びっばらんど」のイベントを 2 回、「びっばらんシリーズ」のイベントを連続 4 回、合計 6 回開催した。

本稿では 2020 年度のオンラインによるびっばらん活動に関するデータについて、特に、子ども・子育て支援活動を通じた保育学生の教育に焦点を当てて検討する。

表 1. 子ども・子育て支援に特化した学びのイメージ（瀬々倉, 2019）

		知 識	理 論	実 践： びっばらんど	より専門的な 実践・研究： びっばらんシリーズ
1 回生	前期			(希望者は補助参加)	(希望者は補助参加)
	後期		教育心理学Ⅱ	(希望者は補助参加)	(希望者は補助参加)
2 回生	前期		発達心理学Ⅱ (子ども家庭支援の心理学)	子ども・子育て 支援演習Ⅰ	(希望者は補助参加)
	後期	子ども家庭支援論			
3 回生	前期			子ども・子育て 支援演習Ⅱ	児童学専門演習 子ども・子育て支援ゼミ
	後期		子育て支援		
4 回生	前期				児童学研究演習 子ども・子育て支援ゼミ
	後期				
卒業		幼稚園、認定こども園、保育所、児童館、子育て支援関連機関、関連企業、進学			

## 2. 方法と結果

(1) オンラインによるハイブリッド型の授業（遠隔双方向型、録画を利用したオンデマンド型などを組み合わせた授業）と、授業内で行ったびっばらん活動のイベント準備〔ICT ツールの活用〕

筆頭筆者が担当するすべての講義において使用した ICT ツールを列挙したうえで、本稿に深く関係するツールについて記載する。LMS(Learning Management System 教材の配布、課題の提出、諸連絡)、Zoom® (動画や文書などの共有、事前登録による固定グループのブレイクアウト・セッション、録画、ホワイトボード)、Microsoft Office365 の PowerPoint®・Stream®(学内限定の動画の掲載)・Teams®(授業ごとのチームや授業・学年を越えたチーム

編成、チーム内や個人間チャット、文書ファイルの共有・共同編集、動画や画像の共有、ダウンロード不可の資料の提示)・Photo(動画編集)、YouTube®(動画の掲載)、Twitter®(外部に向けた情報発信)、Web カメラ、ヘッドセット、スピーカーマイク等を用いている。なお、ブレイクアウト・セッション機能は Zoom®が先行しているが、2020 年末に教育機関向けの Teams®にも機能が追加されている。

びっばらん活動にのみ使用したツールは、Google form®であり、参加学生のアンケート調査、イベントに参加した親子の申し込みやアンケート調査に使用した。なお、各ツールの機能を理解し、設定登録を行って授業に活用できるようにするためには、相当の時間と労力を要している。

#### 〔オンラインによる双方向型授業〕

文科省の通知に基づいてオンラインによる授業時間を 60 分とし、課題取り組み時間を 30 分とした。4 月下旬から始まった授業はオンライン双方向型とし、Zoom®内で PowerPoint®や動画を用いて説明を行った。また、LMS を使用して諸連絡や課題提供を行い、6 月からはチャット機能の利便性が高い Teams®で講義ごとのチームを編成し、受講生を登録して併用した。Zoom®のグループ登録を事前に行ってブレイクアウト・セッション(固定グループによるブレイクアウト・ルームでのディスカッション)を実施した。ブレイクアウト・セッションの録画ミスへの対応として共同ホストを各 2 名とし、その日の内に Teams®に録画と議事録を学生が掲載した。講義時間が限られている中でも他のグループのディスカッションの様子を視聴したり、所属グループにリアルタイムに参加できなかった際にも視聴したりできるようにした。

Teams®内のチーム毎に連動している Stream®のグループに、授業全体の録画を執筆者が掲載した。受講生や講義内で扱う題材のプライバシーを守りつつ、オンデマンドへの要望にも対応するため、Stream®は Teams®と連動したメンバーのみ視聴可能とし、ダウンロード不可に設定している。なお、学生も Teams®には投稿可能である一方、Stream®への投稿は教職員に限られている。

9 月下旬からは一部対面授業が可能となったため、対面授業とオンライン双方向とを執筆者らが同時に行った。

#### 〔びっばらんのイベント準備・開催〕

びっばらんのイベント準備は 2 回生の通年科目である「子ども・子育て支援演習 I」の授業内外でおこなった。受講生は 28 名であり、筆頭執筆者のゼミ生もオブザーバー兼アドバイザーとして参加した。授業は Zoom®の全体講義に加えて、事前登録した固定グループによるブレイクアウト・セッションを積極的に用いた。具体的には、運動遊びグループと造形遊びグループとに大別してグループディスカッションやイベントへの準備を行った。

さらに、授業内外でグループを細分化し、ブレイクアウト・セッションによってディスカッションや準備を進めた。細分化した各グループの役割は、リーダー1名、サブリーダー1名、広報3名、はじまりの会2名、メイン活動5名、おわりの会2名である。これらの活動も全て録画編集してStream®とTeams®とに掲載した。また、Teams®では学生もスレッドを立てるよう促し、役割ごとの進行状況の報告や作成途中の動画などについての意見を募るなどすることで、活発な交流が展開されるようになっていった。

学生の要望に応じて夏季休暇中もオンラインによるびっばらん活動を行っており、イベント開催に向けてのリハーサルや練習は授業内外でおこなった。

10月17日に開催した運動遊びグループによるびっばらんのイベントは、「びっばらん島のぼうけん」をテーマにしており、参加者の親子と保育学生らが画面越しにジャンケンなどを行い交流した。バランスゲームなどの遊びを通して自然に身体を動かしながら進み、宝箱のカギを見つける物語形式である。11月28日に開催した造形遊びグループによるびっばらんのイベントは、「みんなの1等賞はなあに？～世界に一つだけの王冠を作ろう～」をテーマにした紙皿を使った王冠づくりである。2回のびっばらんど活動のイベントのチラシを図1に示す。各グループの広報係が中心となって、Teams®内で意見を交わしながら作成したものであり、本稿末尾に記しているびっばらん Twitter®ではカラー画像を掲載している。



図 1.びっばららんのイベント: チラシ

メイン活動である運動遊びの方法や紙皿を使った王冠作りの制作過程の見本となる動画、はじまりの会及びおわりの会の動画を事前に作成した。イベント当日のメイン活動では、見本動画の視聴後に親子と保育学生がリアルタイムで交流しながら進化した。意見を取り交わしながら繰り返し行った動画撮影は、執筆者らが講義外の対面指導や Zoom®によるオンライン指導を行いながら学生が行った。撮影後も学生が編集して字幕を付け、Teams®に掲載して意見を募り、速度や音声の調子などを改善していった。動画の視聴を通して、ネット環境によっては音声トラブルが生じる可能性があることや、聞こえにくさを抱える親子にも役立ててもらえるようにと話し合い、事前録画には字幕、イベント当日のリアルタイムの進行にはフリップを使用することとなった。イベント当日の流れと配信の関係について表 2 に示す。なお、親子との双方向で行う交流については、リーダーとサブリーダーが中心となって進化した。

表 2.オンラインびっばらん活動の流れと配信

プログラム	びっばらんど	びっばらんシリーズ
招待状	招待動画の送付	メールのみ
はじまりの会	事前録画(ペープサート・デジタル絵本)+双方向	双方向(手遊び歌)
メイン活動	事前録画+双方向	親子ごとに、ブレイクアウト・セッションによる双方向
おわりの会	事前録画(ペープサート・デジタル絵本)+双方向	事前録画(絵本)+双方向

2 回生科目の「保育実習 I」は次年度に延期となったことから、オンラインではあるが、びっばらんどのイベントが保育学生として初めて子どもや保護者に関わる機会となった。

それぞれのイベント当日の様子について録画し、後に 3 種類の編集動画を作成した。①親子の様子もそのまま映っている動画については、講義の中で視聴しディスカッションを行った。②Zoom®の画面には映らない「舞台裏」の動画については、当日のスタッフの動きを全員が共有するために講義内で視聴した。コロナ禍であるため、イベント当日は限られた人数の保育学生のみが、びっばらんルームから配信し、多くの学生は自宅から Zoom®に参加することとなった。③親子の画像部分をカットして編集した動画は、子ども・子育て支援のオンデマンドコンテンツとして広く他の親子にも視聴してもらえるように、大学のホームページにリンクを貼っている(びっばらんど動画.2020)。なお、保育学生の顔が映っていることから、リンクフリーにはしていない。

〔ぴっぱらんシリーズのイベント準備・開催〕

ぴっぱらんシリーズのイベント準備は執筆者のゼミ3回生を中心に行い、おわりの会の絵本読みについては、2回生の有志に依頼して事前動画を作成した。多くはぴっぱらんのイベント準備と重複するので異なる点のみ記載する。

ぴっぱらんシリーズのイベントでは、親子1組に対して保育学生1人が4回通して担当することで、段階的に関わりを深めていくことになる。また、従来に来室対面型で重視していた親子分離は実施せず、Zoom®のブレイクアウト・セッションによって、1組の親子と一人の保育学生とが一部屋ごとに分かれて実施する形式とした。このため、4回分のプログラム内容を保育学生全員が、担当する親子に合わせて進行できるように、言葉がけの方法や材料の提示の仕方など、より具体的な指導や練習を重ねることが必要となった。

3回生は6月に行う予定であった幼稚園教育実習が延期となったものの、2回生の時点で保育実習Ⅰと施設実習を、2020年度の3回生時にはコロナ禍ではあってもイベント開催前に保育実習Ⅱを経験していることから、ある程度子どもの反応は予測できたようである。もっとも、保護者と密に関わる経験はほぼ初めてであったため、個々のブレイクアウト・ルームに執筆者らが入室して必要に応じて介入した。

ぴっぱらんシリーズのイベントに関するチラシを図2に示す。ペットボトルを使ったマラカス作りや飲料パックを使用したカスタネットづくりを経て、それらを使ってダンスをする流れとした。来日直後で英語での対応が必要な親子のために、英語を記した絵カードをフリップとして作成したり、絵本については簡単な翻訳を加えて読んだりした。



図 2.ぴっぱらんシリーズのイベント:チラシ

(2) オンライン双方向型による支援と、従来の対面型による支援の比較検討

従来の来室対面型による支援とオンライン双方向型による支援について、実施方法・支援対象の親子・学生の関わりを整理したびっばらんのイベントの比較を表3に示す。

表3 従来の来室対面型とオンライン双方向型によるびっばらんのイベントの比較

活動	従来の来室対面型		オンライン:双方向型・オンデマンド型	
	びっばらんど	びっばらんシリーズ	びっばらんど	びっばらんシリーズ
対象	日本語が話せる親子 幼児1人と養育者のみ 近隣在住		字幕が必要な親子 英語が必要な親子 乳幼児期の親子 + 兄弟姉妹 居住地域に限定されない	
関わり	複数の親子に 一斉に対応	親子分離 子どもはマンツーマン	複数の親子に 一斉に対応 字幕付き	ブレイクアウト・ルームで 親子毎に個別対応 日英の字幕付き 英語対応
内容	親子合同遊び	感触遊びを中心とした 発達促進的アプローチ 養育者向けプログラム	親子合同遊び	個別対応の親子遊び
配信	なし	なし	双方向型 オンデマンド型	双方向型

一時はイベントの開催が危ぶまれたが、コロナ禍だからこそ必要な支援があることを重視した。オンラインによるびっばらん活動を行う過程で、その都度必要に応じて対応を重ねてきた。改めて比較検討した結果、これまで対象としていた親子のみならず、多様な親子のニーズを理解し、オンラインであればこそ対応が可能な場合があることが明らかとなった。これまで対応できていなかった、遠方在住の親子、字幕が必要な親子、英語が必要な親子などへの対応を行っている。

(3) オンラインびっばらん活動に参加した保育学生を対象としたアンケート調査

オンラインびっばらん活動に参加した保育学生を対象にしたアンケート調査の結果を表4に示す。丸数字に対応した質問項目に対する程度を1(弱い)から5(強い)までの点数で評価している。アンケート調査は個々の学生が自分の経験を客観化すること、今後の保育者養成における子ども・子育て支援に関する教育・研究に活かすことを目的としている。

表4.びっばらん活動に参加した学生を対象としたアンケート

		びっばらんど						びっばらんシリーズ (n = 5)	
		運動遊びグループ (n = 12)		造形遊びグループ (n = 10)		全体 (n = 22)		Avg.	SD
		Avg.	SD	Avg.	SD	Avg.	SD		
①	活動に参加することで満足できた。	4.7	0.47	4.1	0.83	4.4	0.72	4.2	0.40
②	子ども・子育て支援について理解できた。	4.3	0.83	4.1	0.54	4.2	0.72	3.8	0.40
③	子ども・子育て支援への興味が強くなった。	4.5	0.65	4.5	0.67	4.5	0.66	4.6	0.49
④	子ども・子育て支援にやりがいを感じた。	4.4	0.64	4.2	0.98	4.3	0.82	4.8	0.40
⑤	録画(事前準備含む)で実施後に客観視できた。	4.3	0.62	3.8	0.75	4.1	0.73	4.4	0.80
⑥	録画を活用して他者に説明することができた。	4.2	0.69	3.5	0.81	3.9	0.81	3.4	0.49
⑦	録画を活用した研究ができた・したい。	3.9	1.04	3.4	0.80	3.7	0.97	3.4	0.49
⑧	子どもとの関わりは難しかった。	1.9	0.64	1.9	0.83	1.9	0.73	2.0	0.63
⑨	子どもとの関わりは新鮮だった。	4.0	1.29	4.3	0.90	4.1	1.14	4.0	0.89
⑩	個々の子どもに合った対応について学ぶことができた。	3.5	1.12	3.9	0.54	3.7	0.92	4.6	0.49
⑪	保護者との関わりは難しかった。	3.8	0.99	4.2	0.75	4.0	0.90	4.4	0.80
⑫	保護者との関わりは新鮮だった。	4.4	0.64	4.2	0.98	4.3	0.82	5.0	0.00
⑬	子育てに関する保護者の思いを知ることができた。	3.9	0.64	3.6	0.66	3.8	0.67	3.6	0.80
⑭	子ども・子育て支援は多くの機関や関係者が関わっている。	4.7	0.47	4.2	0.60	4.5	0.58	4.4	0.49
⑮	子ども・子育てに関係する機関の役割を理解できた。	4.1	1.04	3.9	0.70	4.0	0.90	3.2	0.75
⑯	オンラインによる実施は難しかった。	4.3	0.62	4.8	0.40	4.5	0.58	4.8	0.40
⑰	オンラインによる実施ならではの活動ができた。	4.4	0.49	4.6	0.49	4.5	0.50	4.4	1.20
⑱	活動準備のプロセスなどの情報が共有できていた。	3.1	1.04	3.2	0.98	3.1	1.01	4.0	0.63
⑲	メンバー同士が感じていることを共有できていた。	3.3	0.83	3.4	0.80	3.3	0.82	4.6	0.80
⑳	自分の意見を他のメンバーに伝えることができた。	3.8	0.90	4.0	0.89	3.9	0.90	4.6	0.49
㉑	自分と異なる意見を受け入れることができた。	4.4	0.49	4.3	0.64	4.4	0.57	4.6	0.49
㉒	本番で出会った親子の様子は想像していた通りだった。	3.3	0.75	3.5	0.81	3.4	0.78	2.8	0.75
㉓	適切に段取りを行うことができた。	3.6	0.64	2.9	1.04	3.3	0.91	2.8	0.40
㉔	練習時間は十分だった。	3.3	0.60	2.6	0.80	3.0	0.77	2.6	0.49
㉕	主体的に判断し行動できた。	3.8	0.90	3.3	0.90	3.6	0.94	3.8	0.75
㉖	親子に対して適切な態度や言葉遣いができた。	3.9	0.76	3.6	0.92	3.8	0.85	4.0	0.00
㉗	15回の講義回数では足りなかった。	3.8	0.99	4.1	1.04	4.0	1.02	3.2	1.17



表5.自由記述覧の記載文字数

	びっばらんど						びっばらんシリーズ	
	運動遊びグループ (n = 12)		造形遊びグループ (n = 10)		全体 (n = 22)		(n = 5)	
	n	Avg.	n	Avg.	n	Avg.	n	Avg.
WEB びっばらんどの実施にあたって、どのような不安を感じ、どのようにして解消しましたか。	12	333	10	104	22	229	5	100
特に印象深かったことのプラスマイナス両面について教えてください。	12	416	10	103	22	274	5	146
今後、WEB びっばらんで挑戦してみたい内容を教えてください。	10	115	4	58	14	99	2	87

また、表5に保育学生を対象としたアンケートの自由記述覧の記載文字数を示す。造形遊びグループに対して運動遊びグループの自由記述覧の文字数は 2.0～4.0 倍になっている。

アンケート対象者はびっばらん活動を通してイベントの準備を恒常的に行い、イベント当日も参加した、びっばらんど 26 名とびっばらんシリーズ 5 名の合計 31 名である。関連科目である「子ども・子育て支援演習Ⅰ」の授業目標と、「びっばらん活動における学生の学び」(図 3・4) に沿った質問項目を中心に、保育学生がびっばらん活動を通してどのような経験をしたのか調査した。

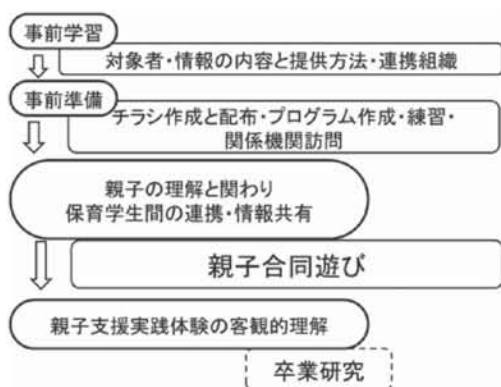


図 3.びっばらんどにおける学生の学び

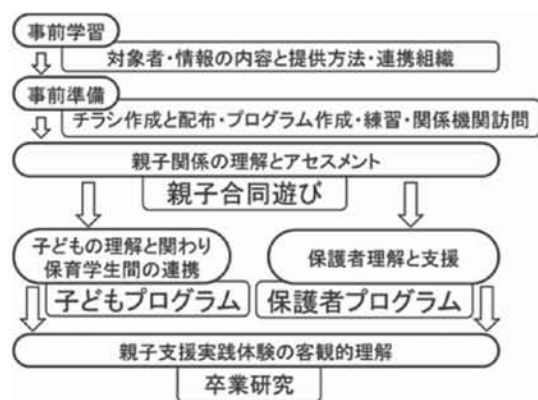


図 4.びっばらんシリーズにおける学生の学び

造形遊びグループに対して、運動遊びグループの保育学生の方が全般的に質問項目の点数が高くなる傾向にあり、特に録画に関連した 3 項目(⑤～⑦)はいずれも 0.5 ポイント以上高く、満足度、適切な段取り、練習時間、主体的な判断で行動(①・⑬～⑮)でも 0.5 ポイ

ント以上高くなっている。

「ぴっばらんど」の活動に比して、「ぴっばらんシリーズ」の活動に参加した保育学生は準備活動を対面で行う機会が多かったこと、少人数だったこと、保育学生全員が全ての行程を共有する必要のあるプログラムであったことから、思いの共有(19)が 1.3 ポイント、情報の共有(18)が 0.9 ポイントそれぞれ高くなっている。

参加満足度(1)は総じて高く、特に運動グループでは 4.7 ポイントとなっている。子ども・子育て支援への興味ややりがい(3・4)も総じて高い傾向にあるなかで、子ども・子育て支援の理解(2)がぴっばらんシリーズでは 3.8 ポイントと低いことは注目に値する。

保護者との関わりを新鮮(12)と感じており、特に、ぴっばらんシリーズでは満点の 5.0 ポイントとなる一方で、ぴっばらんどに比して保護者との関わりをより難しい(11)と感じている。

オンラインによる実施が難しい(16)と感じる一方で、オンライン実施ならではの活動ができた(17)と感じている。

自由記述欄については、合計 14 ページにも及ぶ熱心な記述がなされている。音声トラブルへの困惑や、Zoom®の使用方法を如何に保護者に分かりやすく伝えるか苦心したことなどのほか、プログラムの内容に関する記述が多いことから、イベントに参加して下さった保護者対象のアンケート結果と照らし合わせて別の機会に検討することとし、本稿では、代表的なものを紹介する。下線は執筆者が加筆した。

「ぴっばらん活動のイベント実施に際し、どのような不安を感じ、どのようにして解消したか。」という質問に対して、ぴっばらんシリーズに参加した学生は、以下のように回答している。「前例もなく、ZOOM の活用も今年度から始めたばかりだったので、何が必要なのか・どういった問題が起こる可能性があるのかを想像することが難しく、不安を感じた。本番が近づくとつれ、先生方やゼミ生と話すうちに形が具体的になった。チャットやメールではなく、対面や ZOOM を活用して、直接顔を合わせて話し合うことの大切さを痛感した。」である。

同様に、「特に印象深かったことのプラスマイナス両面について教えて下さい。」という質問に対して、ぴっばらんの活動にかかわった保育学生も、「印象深かったことは、ぴっばらんルームでみんなが作業している姿です。それまでずっとリモートで進めていたので実際にみんなで会って作業すると、それまであまり話したことがないメンバーも含めてみんな色々話しながらとっても楽しそうに作業している姿をみてとても嬉しくなったのを覚えています。」と記しており、直接顔を見て話し合ったり、雑談も交えて交流したりすることの重要性が再確認できる。オンラインでは、相当意識しなければ、雑談をしにくいことには十分配慮する必要があるだろう。

また、いずれのイベントについても、授業が始まった当初は不安でいっぱいだったが、準備が進んでいく過程で学生間の気心も知れるようになり、具体的な練習が始まるとさらに不安が解消されていったことが読み取れる。イベント当日は、実際に親子と画面越しにでも交流することができた嬉しさや、親子の反応を確認して達成感を得たとして、オンラインであってもオンデマンドではなく双方向に進めた意義について記載している例が多く認められた。

さらに、ぴっばらんどについては、両グループのリーダーやサブリーダーへの感謝の気持ちが記載されているものが多数あった。

一方、授業外の時間を多く使用することになった点についてはマイナス点だとして記載している回答が複数認められた。

### 3. 考察

#### (1) アンケート結果から見る今後の課題

当該科目のシラバスにおける目標を図式化した内容(図 3・4 前掲)とアンケート結果を照らし合わせて検討した結果、課題として以下の内容が明示された。いずれも、教育方法の工夫で対応が可能であると考えられるものである。

##### 〔関係機関との連携〕

図 3・4 中の「事前学習」における「連携組織」と、「事前準備」における「関係機関訪問」である。子ども・子育て支援は多くの機関や関係者が関わっていること(⑭)については、折に触れて伝えていたこともあり、多くの保育学生が理解したとみられる。しかしながら、関係機関の理解(⑮)につながる訪問の機会については、コロナ禍の影響が大きく提供することができていない。〔「事前準備」における練習・段取り／情報の共有／授業時間外の学習時間の多さ〕

ICT ツールによる情報共有が可能な環境は、執筆者らが Teams®内において意識して整えている。しかしながら、学生たちには全員で情報を共有するためには、自分から発信する必要があることが、上手く伝わらなかったようである(⑱⑲⑳)。執筆者らが「(学生が)コメントを投稿することで、出席を確認する」などとした場合には、全員が投稿しており、積極的な発言を促すには、指導者側の「しかけ」が必要である。

また、実際にプログラム内容を練習することで、段取りが付けられていくことから、できるだけ早く実際に動いて練習する期間に移行する必要がある。学生が段取りを理解することと、十分に練習することは、同時並行的に成立している。一方で、学生自身の気づきを待つには相当な時間を要する。

アンケートの自由記述覧には、複数の学生がマイナス点として、授業外学習の多さにつ

いて言及している。今回の経験をもとに、オンラインびっばらんに特化した学習スケジュールや短期目標を提示することなどを再考したい。

〔スタッフ間の協働関係〕

スタッフ間の共同に関する項目(⑱・⑲)については、びっばらんどよりも、びっばらんシリーズの保育学生が高得点になっている。これは、びっばらんどは役割ごとに分かれて準備活動をするが多かった一方で、びっばらんシリーズは保育学生全員が同一のプログラムを行えるようになる必要がある、準備のプロセスが異なっていたことと、活動にかかわっている学生数の違いが影響していると考えられる。自分の意見の他者への伝達(⑳)が、びっばらんシリーズにかかわった保育学生がより高得点であることも同様と考えられる。この意見伝達(⑳)と異なる意見の受容(㉑)が同程度であれば、バランスの良いコミュニケーションが取れていたと考えられる。

〔オンラインならではの活動〕

オンラインによる実施は難しい(⑳)と感じている一方で、オンラインによる実施ならではの活動ができた(㉒)と感じている学生が多いことから、ICT ツール使用上の技術的な問題や声かけの工夫などについては、別途、簡易マニュアル等の作製が有効ではないかと考えている。

〔子どもや保護者との関わり〕

子どもに合った対応への学び(㉓)のポイントが、びっばらんシリーズで相対的に高得点となっているのは、プログラムの特徴が影響していると考えられる。

また、保育者による子ども・子育て支援が必要とされているにも関わらず、通常の保育実習や幼稚園教育実習では、保育学生が保護者にかかわる機会がほとんどないことから、保護者との関わりを新鮮(㉔)と感じており、びっばらんシリーズでは満点の 5.0 ポイントとなる一方で、保護者との関わりは難しいと感じている(㉕)。いずれも、びっばらん活動ならではの経験を積むことができたと考えられる。

## (2) 保育者養成と子ども・子育て支援

学生と共に行う子ども・子育て支援には、筆頭執筆者から見ると難しさが3点ある。まず支援実践そのもの、次に支援者としての保育者養成、最後に他(多)職種との協働である。筆頭執筆者は公認心理師・臨床心理士であり、この職種にとって子ども・子育て支援は、心理職のみで行う個人心理療法とは異なり、他(多)職種との協働が重要な課題となる。この課題に更に学生の保育者養成のための教育が加わることになる。

一方で、学生と共に行う活動の中では、執筆者らが思ってもみなかった発想や工夫が学生から提示され驚かされることもある。特に、コロナ禍におけるびっばらん活動では、執

筆者らの想定をはるかに越えた豊かなアイデアや ICT ツールへの適応の早さに度々、驚かされている。これらの活動を通して、保育学生たちと、公認心理師や元幼稚園教諭である執筆者らとの協働関係も展開させている。

近年、ECEC の領域では、知的な能力や測定可能な能力を指す「認知能力」だけでなく、感情をコントロールする力や人と上手く関わって協働する力、目標に向かって頑張る力を指す「非認知能力」を育てることが重要とされている。びっばらん活動においては、先回りして逐一教えることは容易い場合でも、できうる限り学生たちの気づきを待つ姿勢で臨んでいる。学生自らが見出していくプロセスに寄り添うことは、保育学生の非認知能力を育て活性化させるプロセスになる。また、保育学生自身で体験したことは、親子への関わりに生きてくる。

#### 4. 結論

本講では、初のオンラインびっばらん活動のイベントに至るプロセスを基に ICT を活用した保育学生の子ども・子育て支援に関する学びを検討した。ICT ツールを駆使してオンライン双方向によるびっばらん活動のイベントを行ったことで、対象とする親子のニーズの多様性に気づき、字幕の工夫や英語対応などの新たな工夫を行うこととなった。特に、字幕については、聞こえにくさを抱えている親子のためだけではなく、ネット環境によって音声聞き取りにくくなるといったオンラインならではのマイナス点への対応としても有効であった。

ソーシャルディスタンスを保つことを要請されつつイベントまでの準備を進めるプロセスは、ICT ツールという新たな手段を駆使して学生間の絆、学生と執筆者らとの絆を新たに構築するプロセスであった。びっばらん活動のイベントにおいては、これらの絆を構築するプロセスで体得した思いや技術を活かすことで、如何に親子との絆を結べるかに心を砕くこととなった。

#### 5. 今後の展望

2021 年度には、3 回生の通年・選択科目として「子ども・子育て支援演習Ⅱ」が開設される。初めてオンラインによるびっばらん活動を経験した「パイオニア」ともいえる学生と下級生とが共にびっばらん活動を行えば、保育学生のスタッフ数が増えるだけでなく、多くの難点が改善されるだろう。今回、びっばらん活動に参加した保育学生たちには、子ども・子育て支援に関するマネジメントについて学ぶ機会を提供し、卒業後には子ども・子育て支援のみならず、様々なプロジェクトの担い手になってもらえればと期待している。

謝辞／付記

初のオンラインによるびっばらん活動のイベントに参加し、当日も協働してプログラムを進めて下さった親子の皆様、参加者応募にご協力下さった皆様、学生たちの努力をあたたく見守って下さった学生の保護者の皆様、危機的な状況において教育環境をスピーディーに整えて下さった学内の皆様に心より感謝申し上げます。最後に、苦難を共に歩み、新たな道を切り開いてくれた保育学生たちに、心からの感謝と敬意を表します。

2020年度のびっばらん活動は教育活動予算「学年を超えた子ども・子育て支援実践とその研究」を得て実施しました。また、京都市より「令和2年度京都市はぐくみ憲章実践推進者表彰 大賞」を受賞することとなりました。

文献

瀬々倉玉奈(2020) 子ども・子育て支援に関する実践と研究を通じた学生の学び, 京都女子大学教職支援センター紀要 2, pp.75-83

瀬々倉玉奈(2019) 保育者養成課程における子ども・子育て支援の枠組－親子支援ひろば「びっばらんど」の実施準備－教職支援センター研究紀要・第1号, pp.53-59

瀬々倉玉奈(2018) 乳幼児期の子ども・子育て支援実践と支援者養成－京都女子大学親子支援ひろばびっばらん－京都市「学まち連携大学」促進事業活動報告書 2017, pp.17-19

オンラインびっばらんど\_運動遊び (字幕付き) <https://youtu.be/-uV2qR5WSWM>

オンラインびっばらんど\_造形遊び (字幕付き) <https://youtu.be/xliiO67C12I>

びっばらんツイッター [https://twitter.com/jido\\_pipparan](https://twitter.com/jido_pipparan)